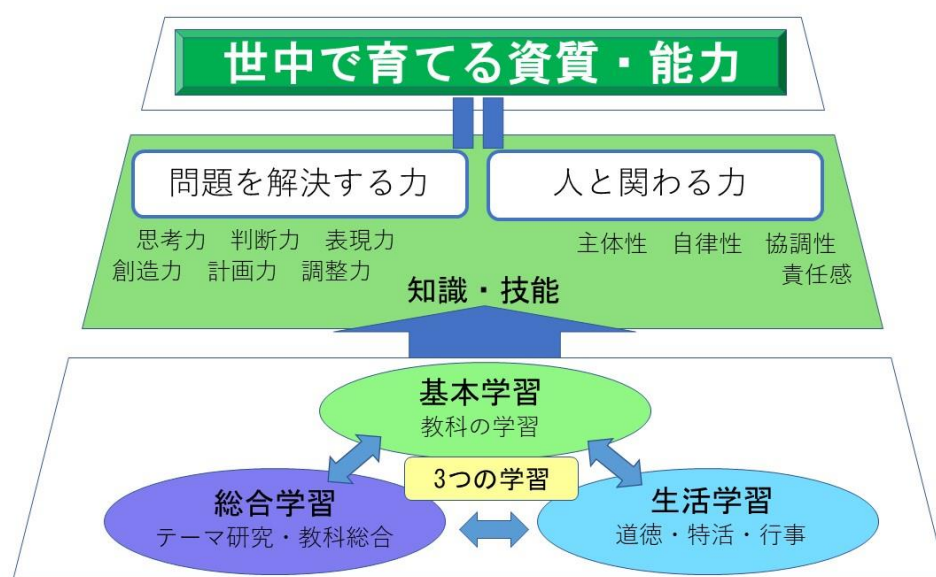


リーダーとしての資質を育てる教育

本校では育てたい生徒像を「豊かな教養を持ち、まわりから信頼され、自ら考え行動できる人」としている。豊かな教養、他の人とのコミュニケーションをする力、的確な判断力と行動力はリーダーの資質として重要だと考えている。

ここで本校が特に重視する資質は、「問題を解決する力」と「人と関わる力」の2つである。しかし、この2つの力はいろいろな基礎的資質が相互に関連をもちながら総合して発揮されるため、さらにその要素となる基礎的な資質を考えた。知識・技能はすべての資質育成の基礎となるものと考え、他の資質を能力面と態度面に分けて考えた。能力面の資質としては、思考力、判断力、表現力、創造力、計画力、調整力をあげた。態度面としては主体性、自律性、協調性、責任感をあげた。主体性には、自主性、積極性、行動力、学ぶ意欲などを含んでいる。また、協調性は協力性、寛容性、思いやりなどを含んでいる。



このような基礎的な能力や態度が総合されて、「問題を解決する力」と「人と関わる力」が発揮される。そして「問題を解決する」活動、「人と関わる」活動を実際に行うことによって、上のような基礎的な能力や態度がさらに強化されると考えている。

本校の教育課程は、各教科の授業「基本学習」、選択制のテーマ研究を中心とした「総合学習」、そして道徳と特別活動を含めた「生活学習」の3つの学習形態から構成されている。これらの3つの学習は、独立して存在するものではなく、密接に関係し、生徒の一人一人の中で融合され、全体として生徒の力を伸ばしていくものである。

本校では、すべての生徒が、単に知識を習得するだけにとどまらず、将来において、タフなリーダーとして活躍していくことを期待している。「基本学習」「総合学習」「生活学習」の三つの学習の往還のなかで、基礎的な能力や態度の育成と具体的な場面でそれを使う活動を行うことによって、リーダーの資質として大切な「問題を解決する力」と「人と関わる力」を育てることができると考えている。